

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 56 人

② 算数 56 人

③ 理科 56 人

5 留意事項

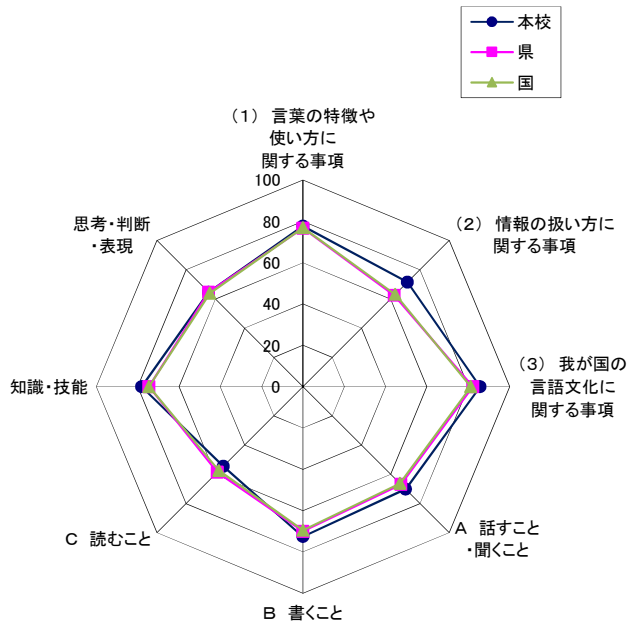
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、県と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	77.7	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	71.4	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.7	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	70.2	67.0	66.3
	B 書くこと	72.6	70.0	69.5
	C 読むこと	54.5	58.6	57.5
観点	知識・技能	78.1	74.5	74.5
	思考・判断・表現	64.6	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

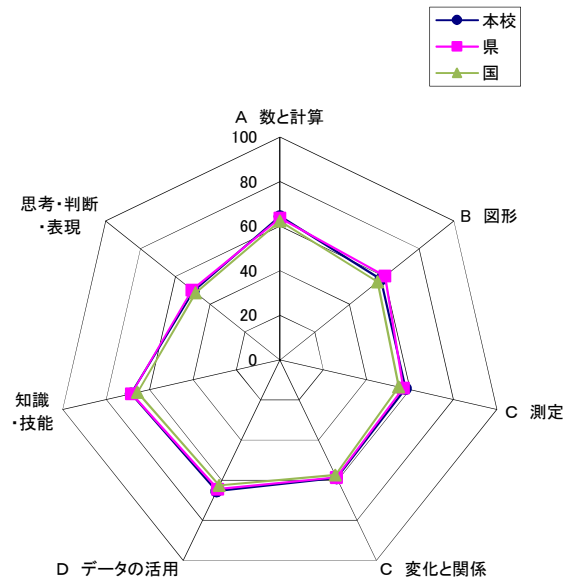
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、77.7%で、全国の平均と同程度だった。 ●「漢字を使って書き直す。」の設問において、平均正答率は全国平均を上回るものもあるが、下回るものもあった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字を繰り返し練習するだけでなく、漢字の意味を押さえたり、熟語や短文を活用し、実生活に即した使い方を学ばせたりすることで、文の中で正しく漢字が使えるようにしていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、71.4%で、全国平均を8.3ポイント上回った。 ○「【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する。」の設問において、平均正答率は、71.4%で全国平均を8.3ポイント上回った。	・国語の授業だけでなく、他教科においても、図や矢印を使って分かりやすく情報をまとめる活動を取り入れ、目的に応じて情報を整理し、まとめる力を身に付けられるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、85.7%で、全国平均を4.5ポイント上回った。 ○「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかをみる。」の設問において、平均正答率は、85.7%で、全国平均を4.5ポイント上回った。	・様々な種類の本や古典的な文学などに触れる機会を積極的に設けることで、語彙力を増やしたり、我が国の言語文化を理解したりできるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、70.2%で、全国平均を3.9ポイントと、やや上回った。 ○「小森さんの発言を説明したものとして適切なものを選ぶ。」の設問において、平均正答率は、60.7%で、全国平均を7.4ポイント上回った。 ●「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかをみる。」の設問において、平均正答率は、71.4%で、全国平均を2.3ポイント下回った。	・授業において、相手の話を聞いて自分の考えを伝え合う活動を充実させることで、話し手の考えを受けて自分の考えを話したり、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力を身に付けていく。 ・他教科においても、目的や意図に応じて話せるような機会を多く取り入れ、様々な場面に応じて話せる力を付けていく。
B 書くこと	平均正答率は、72.6%で、全国平均を3.1ポイントと、やや上回った。 ○「手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する。」の設問において、平均正答率は、91.1%で、全国平均を9.4ポイント上回った。 ●「【調べたこと】を基に詳しく書く。」の設問において、平均正答率は、57.1%で、全国平均を4.2ポイント下回った。	・条件に合わせて書く活動を意図的に設け、目的に応じた文章表現の技能を高めていく。 ・家庭学習等で、一定の条件に合わせて書く課題を定期的に出したり、お互いの文章を友達と読み合ったりすることで、書く力や文章校正力を高めていく。
C 読むこと	平均正答率は、54.5%で、全国平均を3.0ポイントと、やや下回った。 ○「目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかをみる。」の設問において、平均正答率は、41.4%で、全国平均と同程度だった。 ●「文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかをみる。」の設問において、平均正答率は、42.9%で、全国平均を8.4ポイント下回った。	・読書活動では、物語文だけではなく、説明的文章など多岐にわたる文章を意図的に読ませることで、読解力を高めていく。 ・授業や家庭学習において、新聞記事などの日頃接する機会が少ない文章を読む機会を設け、叙述を基に事実を押さえ、筆者の言いたいことや要旨を把握できるよう指導していく。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、県と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域	A 数と計算	64.5	63.6	62.3
	B 図形	58.0	60.4	56.2
	C 測定	58.0	56.9	54.8
	C 変化と関係	58.9	58.6	57.5
	D データの活用	65.4	64.4	62.6
観点	知識・技能	68.5	68.3	65.5
	思考・判断・表現	49.5	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

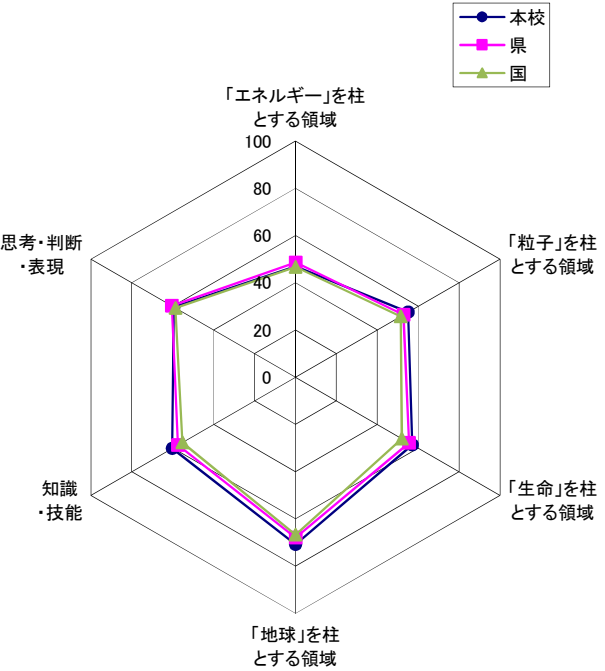
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、64.5%で、全国平均を2.2ポイントとやや上回った。 ●「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算できるかどうかを見る。」の設問において、平均正答率は71.4%で全国平均を3.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ドリル学習や習熟度別学習を通して、四則計算が身に付いてきているので、今後も継続して指導していく。 ・計算の技能をさらに高めていくために、個人の能力に応じて今後も繰り返し学習させ、定着を図っていく。 ・文章から式を導き出す問題や、必要な情報を見つけ出す問題を繰り返し解くことで、様々な文章問題に慣れる機会を増やす。
B 図形	平均正答率は、58.0%で、全国平均を4.8ポイント上回った。 ○「図形の面積を求める。」の設問において、平均正答率は全国平均と同程度であった。 ●「図形の作図や図形の性質について回答する。」の設問の正答率が全国平均よりも下回った。	・立方体や円柱の見取図や展開図の理解に課題が見られるため、図形の観察や構成、分解などの具体的な操作活動を通して、図形の見方を深め、実感を伴って理解できるようにしていく。 ・図形を構成する要素とその関係に着目し、図形を弁別できるようにするとともに、基本図形の面積の公式の理解を深め、活用できるようにしていく。
C 測定	平均正答率は、58%で、全国平均を3.2ポイントとやや上回った。 ○「はかりの目盛りを読むことができるかどうかを見る。」の設問において、平均正答率は66.1%で全国平均を5.2ポイント上回った。	・示された場面から必要な条件を取り出し、図や数直線を用いて数量関係を視覚的に表すことで、児童が実感を伴って理解できるように努める。
C 変化と関係	平均正答率は、58.9%で、全国平均と同程度だった。 ○「伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかを見る。」の設問において、平均正答率は89.3%で全国平均を6.5ポイント上回った。	・2つの数量の間にどのような関係が成り立つかを予想し、数や場面を変えても同じように関係が成り立つかを考えたり、なぜそのような関係が成り立つといえるのかを表現したりすることを通して、2つの数量の関係について考察する力を育んでいく。
D データの活用	平均正答率は、65.4%で、全国平均を2.8ポイントとやや上回った。 ○「簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかを見る。」の設問において、平均正答率は78.6%で全国平均を7.0ポイント上回った。 ●「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかを見る。」の設問において、平均正答率は76.8%で全国平均をやや下回った。	・日常生活の事象について、目的に応じて、適切な分類・整理の仕方やグラフの表し方を判断し、データの特徴や傾向に着目して考察することができるよう、社会科や総合的な学習の時間など他教科とも関連させて、データを分析する経験を積むことができるようにしていく。 ・児童の興味・関心や問題意識に基づいてデータを収集し、円グラフや帯グラフに表したり読んだりすることを通して、データの特徴や傾向を捉え、結論を導いたり、結論について考察したりすることができるようにしていく。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、県と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	46.9	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	55.1	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	57.1	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	70.8	67.9	66.7
観点	知識・技能	60.3	57.5	55.3
	思考・判断・表現	59.5	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、46.9%で、全国平均と同程度だった。 ○「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられるものを選ぶ。」の設問において、平均正答率は21.4%で、全国平均を9.0ポイント上回った。 ●「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わる。」の設問において、平均正答率は71.4%で、全国平均を6.6ポイント下回った。	・図や表を基に関係式を導く活動を積極的に取り入れ、式の意味を言語で説明することで考察を深める力を育てていく。 ・観察や実験の結果を整理し、グラフや表で表現するなど、数量や関係を多面的に捉える活動を充実させる。さらにICTを活用してデータを共有・比較し、根拠を基にした説明力を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、55.1%で、全国平均を3.7ポイントとやや上回った。 ○「水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる。」の設問において、平均正答率は67.9%で、全国平均を10.4ポイントと大きく上回った。 ●「水は温まると体積が増えるを根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現する。」の設問において、平均正答率は65.6%で、全国平均を10.2ポイントと大きく下回った。	・実験で得られた結果を表や図で整理し、粒子の性質を式や図で表現する活動を継続する。 ・観察結果を基に友達と説明し合い、多様な表現方法を比較することで理解を深められるようにする。さらに、言語・図・式を結び付けて考察する学習を充実させ、科学的な表現力を養う。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、57.1%で、全国平均を5.1ポイント上回った。 ○「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているか。」の設問において、平均正答率は21.4%で、全国平均を9.0ポイント上回った。 ●「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現する。」の設問において、平均正答率は25.0%で、全国平均を4.9ポイントとやや下回った。	・観察結果を図や表にまとめ、その内容を言語で説明する活動を今後も継続していく。 ・さらに、体のつくりや働きとの関係を図と式に関連付けて考察する場を設け、根拠を明確にして説明する力を伸ばす。 ・実験結果の比較やICTを活用した記録共有を通して、科学的に根拠を示しながら説明する力を高める。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、70.8%で、全国平均を4.1ポイントと、やや上回った。 ○「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解する。」の設問において、平均正答率は71.4%で、全国平均を10.5ポイントと、大きく上回った。 ●「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現する。」の設問において、平均正答率は57.1%で、全国平均を3.4ポイントと、やや下回った。	・天体や気象などの観察データを整理し、グラフや図で表したものを言語に関連付けて説明する活動を重視する。 ・複数の情報を結び付けて考察し、結果を式や図で示す学習を取り入れる。さらに、観察の結果を共有し合う中で、他者の説明を理解するとともに、自らの考えを相手に分かりやすく伝える力を育てていく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「朝食を毎日食べていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」の肯定的割合は、96.6%、91.5%と全国平均をやや上回った。規則正しい生活習慣が身に付いていることがうかがえる。今後も家庭と連携して、安定した生活リズムを維持できるよう支援していきたい。	
○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の肯定的割合は76.3%と、全国平均を上回った。今後も安心して相談できる人間関係づくりを継続し、信頼関係を深めていきたい。	
○「自然の中で遊ぶことや観察をすることがありましたか。」の肯定的割合は、89.9%と全国平均を上回った。自然体験を生かした学習や活動を今後も積極的に取り入れていきたい。	
○「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか。」の肯定的割合は、83.0%と全国平均と同程度であった。発表や意見交流の機会を増やして「表現する力」を高めること、友達の意見を取り入れ考えを広げ、深める振り返りの場を意識的に設けること、課題解決型学習を充実させることなどを通じて、学びの達成感を実感できる授業づくりを進めていくようにしたい。	
○「ICT機器を使って自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか。」「ICT機器を使うことで友達と考えを共有したり比べたりしやすくなりましたか。」の肯定的割合は、86.4%、89.9%と全国平均を大きく上回った。ICTを活用した学習が定着していることがうかがえる。今後も効果的な活用を工夫し、学習の理解や表現の幅を広げていきたい。	
●「国語の勉強は好きですか。」「国語の勉強は得意ですか。」の肯定的割合は、39.0%、45.8%と全国平均を大きく下回った。授業の中で図や表と文章を関連付けて理解する活動を取り入れ、根拠を明確にして説明する経験を積ませ、学習意欲や自信を高めていきたい。	
●「自分にはよいところがあると思いますか。」の肯定的割合は、77.9%と、全国平均を下回った。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の肯定的割合は、91.5%と全国平均と同程度であった。今後も学習や生活の様々な場面で互いのよさを認め合う活動を充実させたり、自分のよさに気付けるようにしたりしていきたい。また、認め励ます指導や成功体験の場を意識的に設け、自分を認める気持ちを育み、児童の自己肯定感が高まるような指導をしていきたい。	

宇都宮市立昭和小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本定着のための「じっくりタイム」の実施と家庭学習の習慣化	学校全体の学力アップ月間を年2回設け、計算力や漢字力アップなどのポイントを絞って基礎学力アップを図っている。また、保護者とも連携し、「家庭学習の記録」を活用して、家庭学習を充実させている。 今後も、継続的・計画的に適切な分量・内容の宿題を出し、保護者とも連携しながら、家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。	月曜日から金曜日の家庭学習の時間については、1時間以上学習している児童が53.0%と、全国の平均をやや下回った。また、家庭でPC・タブレットを使って学習している児童は17.0%で、全国の平均を8.4ポイント上回っている。 学校で学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげているかという質問に対する肯定的回答は、69.5%で、全国の平均を3.2ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
図や表と文章を関連付けて理解する力や、自分の考えを根拠を基にまとめて説明する力が全国を下回った。また、話し合いを通して考えを深める力や、学習を振り返る習慣にも課題が見られた。	・図・表・式・言語を関連付けて考えを表現する力の育成 ・話し合い活動や振り返りを通した主体的・協働的な学習の充実 ・根拠を基に自分の考えをまとめる力の育成	・図や表を基に自分の考えを式や言葉で表し、根拠を明確にして説明する学習を取り入れる。 ・話し合いでは、友達の意見を比較・整理して自分の考えを深められるよう指導する。 ・授業のまとめや振り返りを位置付け、自分の理解や課題を整理し、次の学習につなげる習慣を定着させる。